

新保育論連載 3

経験豊かな保育者が心配する行動には、何らかの理由があります

アメリカからの報告

最近、アメリカで報告された自閉症児発症率ですが、166人に1人は自閉症児という数字です。つい最近までは自閉症の研究者は2500人に1人だと報告していました。(私が学生の頃は一人に一人と教えられました)。それが驚異的に166人に1人と驚くほど高い数字です。1993年から2003年のほんの10年で、アメリカは65パーセントに増えたと報告されていますが、診断基準の幅が広がったから数も増えたとも考えられています。これまでは自閉症をある特定の疾患ととらえていたのですが、自閉症スペクトラム(連続体)という考え方が取り入れられ、幅広く対人関係の取りにくい子どもも、自閉症スペクトラムと考えられるようになり数字的に増加したというのです。

日本の学校現場における発達障がい児

日本では、学校現場から子どもが落ち着かない、これでは授業が成り立たないという苦情が現場の先生から多く寄せられ、文科省は2002年に全国の学校の先生にアンケートを採りました。医療的なことではなく、担任が教育的にやりにくいと思う子どもの報告が6.2という数字が算出されました。そこで発達支援法という法律が作られ、障がい児のすそ野を広げた幅広い支援体制が取られるようになりました。さらに10年後また調査をしたら、6.5パーセントの61万3000人の学童期の発達障がい児が報告されました。

発達障がいの原因の一つが環境ホルモン説

発達障がい児が増えていく原因の一つに環境ホルモン説があります。PCB(化学的合成物質)といわれる自然にない人工的な物質は既に数十万種あり、これらが何らかの理由で胎児期から乳児期まで継続して体内に蓄積され、子どもの脳に影響を与えていると化学者はいいます。

ニューロンといわれる神経細胞と神経細胞を微妙に結び付けている、シナプスが簡単に環境物質によって破壊されることが分かってきました。「世界各地での野生生物の観察結果から、環境中に存在している物質が生体内であたかもホルモンのように作用して、内分泌系をかく乱することがあるのではないか」と環境省も警告しています。

自閉症が報告されたのは1943年アメリカのカナー博士、続いて1944年、オーストリアのアスペルガー博士の報告があり、カナー型、アスペルガー型自閉症と呼ばれてきました。発表の時期と、戦争に使われた化学物質(戦闘機、戦車、爆弾、ガス等)が作られた第2次世界大戦と時期が合っています。それまでの医学的な文献に自閉症の報告は見当たらないそうです。